

〈協力型病院〉

①【新潟県立がんセンター新潟病院】

住 所	〒951-8566 新潟県新潟市中央区川岸町 2-15-3		病床数：404床
診 療 科 目	内科、精神科、脳神経内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、頭頸部外科、歯科、麻酔科、放射線診断科、放射線治療科、緩和ケア内科、病理診断科		
研修責任者名	田中 洋史（副院長）	連絡先：shomu3@niigata-cc.jp 025-266-5111（代表）	連絡先担当者名：庶務課 臨床研修担当
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成23年度：4人、24年度：0人、25年度：5人、26年度：4人、27年度：1人、28年度：2人、29年度：1人、30年度：2人、令和元年度：2人、2年度：1人 ・その他プログラム採用 平成23年度：1人、24年度：1人、25年度：0人、26年度：0人、27年度：0人、28年度：0人、29年度：0人、30年度：0人、令和元年度：0人、2年度：0人		
研修受け入れ可能診療科※		学会認定専門医数	学会認定指導医数
必修：内科、外科（消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、頭頸部外科、整形外科、形成外科） 選択研修：泌尿器科、脳神経外科、皮膚科、麻酔科、眼科、放射線治療科、放射線診断科、病理、婦人科、小児科、緩和ケア科		内科7人、外科21人、婦人科3人、小児科4人、整形外科3人、呼吸器外科3人、泌尿器科5人、頭頸部外科2人、脳神経外科2人、皮膚科2人、放射線（診断科・治療科）8人、病理4人、緩和ケア科1人	内科7人、外科10人、頭頸部外科1人、脳神経外科1人、皮膚科2人、放射線（診断科・治療科）8人、病理2人、形成外科1人、小児科1人、産科婦人科3人、泌尿器科2人、麻酔科1人
施設の概説・特徴			
昭和25年に「新潟県立新潟病院」として開設され、性病患者の治療と予防及び健康診断を目的に、内科・性病科の2科で開院した。 昭和33年に新潟県では全国に先駆けて「ガン対策推進委員会」を設置し、県民のガン対策について検討した結果、がんの診療と治療及び研究を目的とした総合センターの建設が決定され「新潟県立新潟病院」を拡充整備し、昭和36年1月から「新潟県立ガンセンター新潟病院」と名称変更のうえ、総合病院として新たにスタートしました。 また、昭和62年に移転改築し、名称を「新潟県立がんセンター新潟病院」と改め今日に至る。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
内科：内科は、呼吸器、消化器、血液、循環器、内分泌代謝の5分科がある。外来検査としては、内視鏡検査（上部消化管、大腸、気管支）、甲状腺エコー検査などの件数が多い。当院では、地域の医療機関との緊密な連携、診療に関する情報提供、検診従事者の研修など、新潟県全体の医療水準の向上のための様々な活動を行っている。また、血液悪性疾患及び固形腫瘍（乳癌、泌尿器癌、婦人科癌など）を対象として化学療法・造血幹細胞移植療法を実施、消化器内視鏡に於いては、その開発と技術の向上に先駆的役割を果たしている。更に、糖尿病・高脂血症などの代謝疾患、甲状腺・副腎疾患などの内分泌疾患を幅広く診断し、高血圧、狭心症、心筋梗塞、心不全、血管、動脈硬化などの循環器全般と一般的な腎臓病をも扱っている。 外科◆：完全な臓器別体制を取っており、疾患毎に必ずがん専門医が主治医となる。進行度に応じて縮小手術から拡大手術まで幅広い分野をこなし、早期な癌に対しては、QOLを考慮に機能温存手術を、高度進行癌に対しては、血管切除・再建や拡大郭清、合併切除を積極的に行っている。また手術のみならず化学療法、放射線療法、ホルモン療法にも力を入れている。 小児科：小児血液・悪性腫瘍の診断・治療が主体であり、造血幹細胞移植を含む高度医療からターミナルケアまでのトータルケアを中心とした医療を行っている。 婦人科：悪性疾患を中心とした婦人科疾患の診断と治療に参加できます。また、子宮鏡下手術や腹腔鏡下手術などの内視鏡手術も行っています。 整形外科◆：骨軟部腫瘍、がんの骨転移、手の外科、関節疾患（関節リウマチ、変形性関節症）、再建外科（腫瘍切除後の組織欠損に対する血管付き組織移植による再建手術）をおこなっており、またがんのリハビリも担当しています。 呼吸器外科◆：悪性肺腫瘍、特に肺がんの診断・外科治療・補助療法について、豊富な症例での実習が可能です。 皮膚科：皮膚腫瘍・皮膚外科を主体とした高度専門医療を行っている。 脳神経外科：脳腫瘍患者を中心に一緒に診療を進めながら、神経学的診察、手術手技などを学んで行く。 放射線：放射線診断部門は、全診療科のCT、MRI検査を担当し、更に、超音波検査、消化管造影、血管造影、核医学検査等、幅広い画像診断業務を実施している。また、主に悪性疾患を対象に、動注治療・塞栓術・デバイス留置などのIVR（Interventional Radiology）治療を積極的に行っている。放射線治療部門は、全国有数の患者数を診療し、定位放射線治療をはじめ先進的放射線治療を行っている。 頭頸部外科◆：顔面、口腔、咽頭、喉頭などの頭頸部領域の癌腫いわゆる頭頸部癌治療（Head and Neck Surgery）が専門です。手術、放射線治療による癌の根治と頭頸部機能温存の両立を目指しています。 泌尿器科：泌尿器科各疾患、特に腫瘍性疾患について、標準的治療と先進的医療の実践を学ぶことができる。 形成外科◆：関係各診療科と緊密に連携し、腫瘍切除後の組織欠損に対し、自己組織などを用いて形態等の回復を図っている。			
研修の概説と特徴			
当院は、がんの診療と研究に重点を置いた病院として運営されているが、15病院を数える新潟県立病院における基幹病院の一つとして、総合的診療機能を併せ持っている。そのため、がんセンターとはいえ、一般臨床医としての基本的な臨床能力を修得するのみならず、各専門分野の入り口までの研修が可能である。			
研修医の当直			
1年次より週1回程度、指導医（主当直）とともに、副当直として研修当直する。2年次は、指導医又は上級医とともに、主当直として研修当直する。当直中に経験する症例は経験すべき項目を多く含んでいるので、実習記録に概略を記載する。 〈参考〉当直時間：午後5時15分～午前8時30分			
処 遇			
●給与：1年次（月額基本給）350,000円、2年次（月額基本給）400,000円 （諸手当）通勤手当：上限44,100円（自家用車の場合）職員と同じように支給、 時間外手当：1年目2,249円/時間、2年目2,570円/時間、当直手当：1年目10,500円/回、2年目21,000円/回 ●食事：昼食は職員食堂や売店が開店しているので不自由はない。 ●宿舎：個人準備 住居手当あり（最大27,000円） ●図書・文献：各種資料検索のための図書室が設置されている。 ●インターネット環境：各自の机からインターネットの接続が可能。			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。
 ◆令和4年度当院での外科（必修）担当科の1つであり、研修の際は、基本的な外科手技と全身麻酔手術時の周術期全身管理能力を修得する。